

横浜港への集荷の取り組みについて

1 横浜港フィーダー輸送復興支援制度の実施結果

震災により大きな被害を受けた東北諸港等と横浜港との間のコンテナ物流復活に向け、横浜港フィーダー輸送復興支援制度を実施（6～11月）。

[内航輸送の状況]

	2月	4月	6月	9月	10月	11月
東日本地域との 内航航路数	8航路	0航路 ※1	4航路 ※2	7航路 ※2	7航路 ※2	7航路 ※2
東日本地域との 取扱貨物量	7,620TEU	1,550TEU	2,591TEU ※2	3,344TEU ※2	3,962TEU ※2	4,787TEU ※2

1TEU=20 フィートコンテナ 1本

※1 4月上旬に1航路再開（苫小牧～横浜）

※2 支援制度の対象事業の実績

[参考] 制度内容

- ・内航輸送支援 必要な事業費（船舶関係費・運航費・港湾関係費）の1/3を補助
- ・鉄道輸送支援 1FEU（40フィートコンテナ1本）あたり5,000円を補助

2 横浜港利用促進コンテナ貨物補助制度の概要

東北地方からの貨物量に応じた集荷補助により物流の回復を支援するとともに、本来の目的である釜山港等から貨物を奪還するための集荷策を実施（12月～）。

(1) 東北集荷支援補助

震災の影響の残る東北地方の貨物量の維持・拡大のため、横浜と東北とのフィーダー貨物について、1FEUあたり4,000円を補助
また増加分については、1FEUあたり8,000円を補助

(2) 戦略的集荷補助

- 北海道・東北などにおいて釜山港等へ流出している貨物
- 中部地方など国内他港の貨物
- 国際トランシップ貨物

を主なターゲットとして、国内外の他港から横浜港に利用転換する貨物に対し、1FEU（40フィートコンテナ1本）あたり5,000～7,000円を補助。